

2019 年 11 月 6 日

各位

株式会社スカパーJSAT ホールディングス
代表取締役社長 米倉 英一
(コード番号：9412 東証第1部)
広報・IR 部長 森 裕樹
TEL 03 (5571) 1500

2020 年、国際宇宙ステーションにスタジオ開設へ

世界初の双方向ライブ番組を配信！

～JAXA・バスキュール・スカパーJSAT「宇宙メディア事業」に向けた共創を始動～

株式会社スカパーJSAT ホールディングス（本社：東京都港区、代表取締役社長：米倉 英一）の100%子会社であるスカパーJSAT 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長：米倉 英一）は、本日添付の通り株式会社バスキュール、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構とともに国際宇宙ステーションへのライブスタジオ開設について発表しましたので、お知らせします。

以上

＊本件に関するお問い合わせ先：

株式会社スカパーJSAT ホールディングス

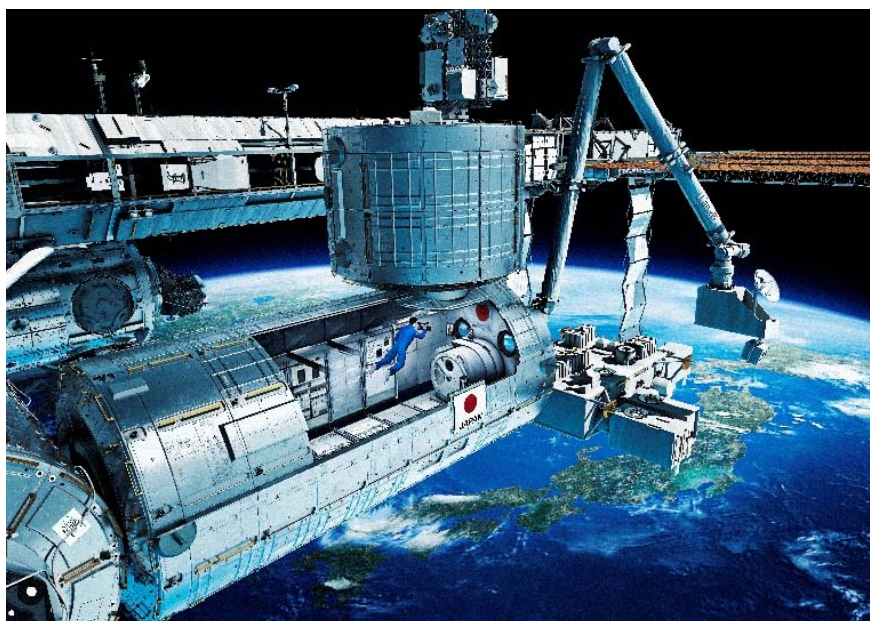
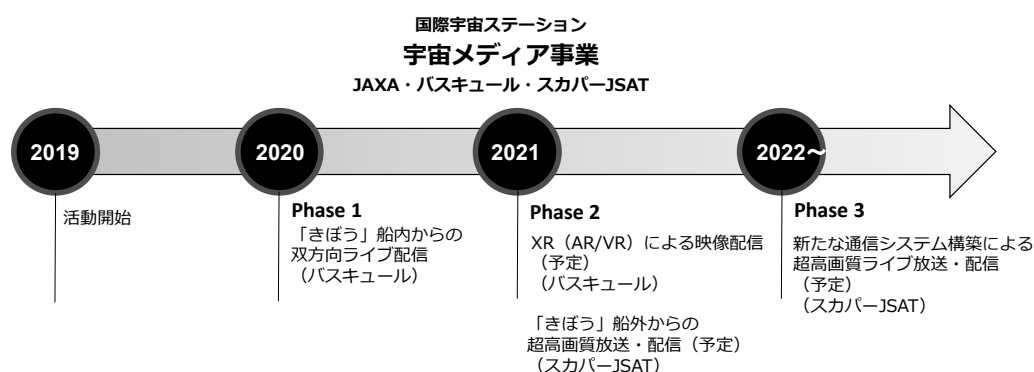
広報・IR 部 広報担当 TEL：03-5571-7600 FAX：03-5571-1760

広報・IR 部 IR 担当 TEL：03-5571-1515 FAX：03-5571-1760

**2020 年、国際宇宙ステーションにスタジオ開設へ
世界初の双方向ライブ番組を配信！
～JAXA・バスキュール・スカパーJSAT「宇宙メディア事業」に向けた共創を始動～**

株式会社バスキュール（代表取締役社長：朴正義、以下「バスキュール」という）、スカパーJSAT 株式会社（代表取締役執行役員社長：米倉英一、以下「スカパーJSAT」という）及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（理事長：山川 宏、以下「JAXA」という）は、国際宇宙ステーション（ISS）にスタジオを開設し、『宇宙メディア事業』の創出に向けた活動を始動いたします。

本活動は、新たな発想の宇宙関連事業の創出を目指す、JAXA の共創型研究開発プログラム・宇宙イノベーションパートナーシップ（J-SPARC）における活動として行います。



提供：バスキュール/スカパーJSAT/JAXA

イメージ図（今後の調整により、実際と異なる場合があります）

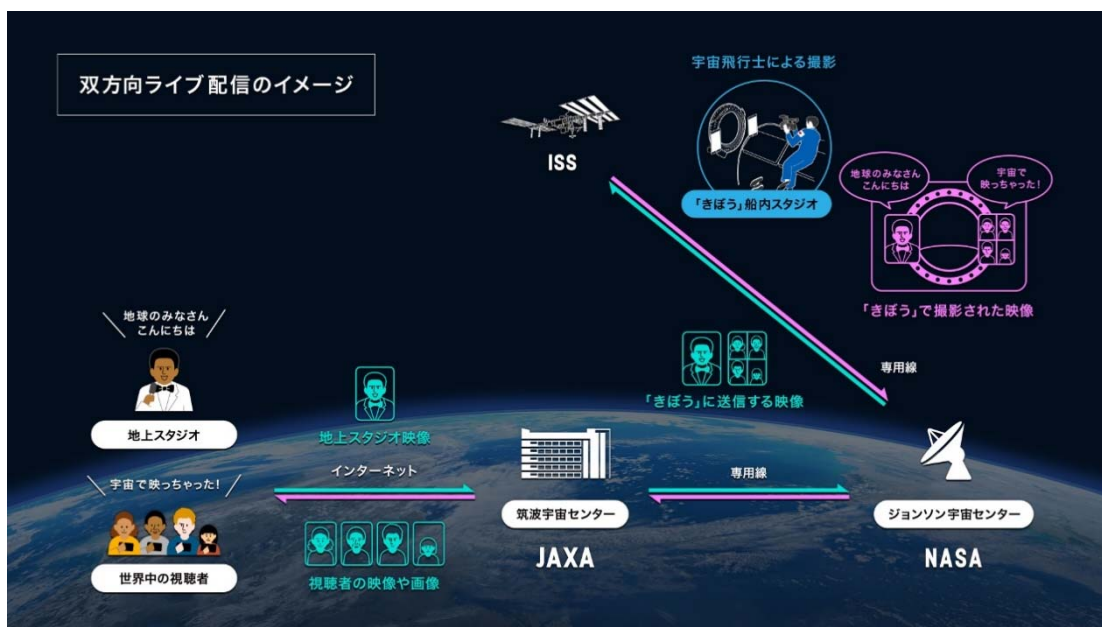
バスキュールとスカパーJSAT は、地上 400km 上空を秒速 8km で周回する ISS の日本実験棟「きぼう」を舞台に、“宇宙の民主化”を促進し、JAXA とともにメディアプラットフォームの実現に向けて検討をはじめました。

バスキュールは、2020 年以降のフェーズ 1 において、「きぼう」船内に番組スタジオ「The Space Frontier Studio KIBO（きぼう宇宙放送局）」を開設し、国際宇宙ステーションに長期滞在する宇宙飛行士とともに、宇宙に設置されたディスプレイを介して宇宙と地上でリアルタイムにコミュニケーションが楽しめる、双方向ライブ配信の開始を予定しています。

きぼう宇宙放送局から届く番組は、スカパーJSAT とともに、BS スカパー！や YouTube、SNS 等で放送・配信をする予定です。国境のない地球を眺めながら、国も言語も世代も性別も違う人々が笑顔でつながりあう番組を目指し、本プロジェクトに賛同してもらえるクリエイターとともに、世界中の人々に向けたコンテンツを企画していく予定です。詳細については、以下の Web サイト（<https://iss-kibo.studio>）をご参照ください。



提供：バスキュール



提供：バスキュール

この取組みを実現させるため、バスキュールは、ISS 日本実験棟「きぼう」の機器等を活用し、ISS と地上との通信回線制約を考慮したデータ通信プロトコル、短時間で起動可能な双方向通信用専用アプリケーションを独自に開発し、2020 年夏以降を目途に、世界初の対面型双方向ライブ配信システムの技術実証及び事業化着手に向けた実証を実施します。また、2021 年頃を想定しているフェーズ 2 では、XR（AR/VR）も活用し、これまでにない映像配信を目指します。

スカパーJSAT は、フェーズ 1 の番組に連携パートナーとして参画するとともに、「きぼう」船外に新たなカメラシステムの構築による、超高画質放送・配信開始に向けた検討（フェーズ 2）と、ISS を利用した新たな通信システムの構築の検討（フェーズ 3）も並行して開始します。「きぼう」における上記のシステムに加え、スカパーJSAT が軌道上に多数保有する衛星通信網も活用して、2022 年以降、「きぼう」から超高画質ライブ放送・配信を目指します。

JAXA は、地球近傍の宇宙空間（地球低軌道）を民間主体の経済活動の場へ発展させていくことを目指し、上記で構築される対面型双方向ライブ配信システムの新たな利用方法や、全てのフェーズにおいて民間事業の創出を後押しする「きぼう」の機能拡充について検討を進めるとともに、フェーズ 1 の事業実施にかかる安全評価、軌道上機器の設置及び運用作業を行います。

3 社が共創して、世界初の宇宙からの双方向ライブ通信番組の配信、超高画質ライブ放送・配信を実現することで、国も言語も世代も性別も違う人々がつながりあう、新しい事業創出に取り組み、国際宇宙ステーション及び日本実験棟「きぼう」の新たなユースケースの開拓を目指します。

関連リンク

宇宙イノベーションパートナーシップ（J-SPARC）

<https://aerospacebiz.jaxa.jp/solution/j-sparc/>

<バスキュール代表取締役社長 朴正義 コメント>



Web から始まった私たちのインタラクティブクリエイション活動は、テクノロジーの進化に伴い、プロダクト・サービス・テレビ・スポーツ・イベント・教育・・・と、その適用領域を拡げてきました。そしてついに、宇宙に関する知識も開発経験のない私たちでも、宇宙に手が届く時代がやってきました。SNS をはじめ、インターネットの世界的浸透により、人々のメディア環境は大きく変化していますが、宇宙を舞台にすれば、世界中の人々が一斉につながる新しいメディアを生み出せるのではないかとワクワクしています。

本プロジェクトを通じて、これまで宇宙と交わることのなかった才能と宇宙との出会いを促し、全く新しい角度からの宇宙事業創出に貢献できたら幸いです。宇宙に飛び出すことを夢想していたクリエイターや企業の皆様からの問い合わせを楽しみにしています。

<スカパーJSAT 代表取締役 執行役員社長 米倉英一 コメント>



「宇宙に行くと価値観が変わる」と宇宙飛行士の方々は言います。行くことは決して簡単ではないですが、独自のカメラと通信が確立できれば、その“視点”を持つことはできるかもしれません。

「宇宙を楽しむ未来を創る。」

これは、“エンタメ”と“宇宙”を仕事場としている、スカパーJSAT のミッションだと思っています。我々の得意分野である放送やエンタメ、そして宇宙通信の力を使って、来たる新しい時代に向けて、「宇宙」というものを子供たちでも直接触れるような身近な存在にまで開放することができたら、と思っています。

<JAXA 理事 有人宇宙技術部門長 若田光一コメント>



国際宇宙ステーション（ISS）「きぼう」日本実験棟の軌道上組み立て完成から丸 10 年が経ちました。これまで、「きぼう」では、無重量環境を利用した様々な科学実験や船外環境を利用した宇宙観測等の利用ミッションの実施と共に、様々な有人宇宙技術も獲得してきました。これまで培った実績を踏まえ、いま、JAXA では、「きぼう」を研究開発だけでなく、様々な目的でより多くのプレーヤーが利用できる場にするための取り組みも積極的に進めています。今回の J-SPARC 共創活動における『宇宙メディア事業』は、これまでにない発想による民間主導のビジネスとして先駆けとなる試みであり、今後ますます広がるであろう「きぼう」の新たな使い方の一歩として期待しています。